

第94回 GAORA 番組審議会記録(2026 年 9 月開催)

第94回番組審議会が9月8日(火)に開催され、対象番組について審議を行い、委員の皆様から以下のご意見をいただきました。

<対象番組> サッカードイツカップ「DFB ポカール」2026-27 開幕特番

初回放送:2026 年 7 月 12 日(日)19:30~20:00

<番組概要>

サッカー強豪国・ドイツで毎年 8 月から翌年 5 月にかけて行われるカップ戦「ドイツカップ(DFB ポカール)」。1935 年に創設された歴史あるノックアウトトーナメントで、ドイツのプロサッカーリーグ『ブンデスリーガ』で活躍する日本人選手も出場。

今回は 2026-27 シーズン開幕特別番組として、今シーズンの展望をはじめ、これまでの日本人選手の活躍を振り返るほか、現在ドイツのクラブに所属する日本人選手を紹介。ドイツカップの魅力をお届けする。

<委員長総括>

■各委員の評価は、総じて肯定的な評価でいい番組であった。意見の中には、いろいろな面から掘り下げを求めるコメントもあったが、今回の 30 分という尺の中では欲張りな要望になるであろう。サッカーに対する造詣、興味、関心が違うものに対して何をどう見せるのか、それぞれ視聴者側の立ち位置の違いによって要望が出たと思われる。逆にいろいろな要望が出るくらいポテンシャルの高い番組、コンテンツであったと言える。

スポーツ専門チャンネルとして、広く浅くみせるのか、狭く深く掘り下げるのか、二律背反するところだが、突き詰めながら次の番組や中継に生かしてもらおうよう期待する。

<審議意見> 委員の主な意見は次の通り

■熱気が伝わる迫力のある映像で、歴史のある大会であることやこれまでの日本人選手の活躍がよく伝わってきた。また、ドイツが世界のサッカーの指標を作ってきたことやトレンドを引っ張ってきたことが分かった。ただ、サッカーの知識が浅いものからすると3バックや5バックの戦術のところがよく理解できなかった。また、映像においては、シュートシーンだけではなく、日本人ディフェンダーが活躍したシーンもあれば尚よかった。

■ドイツに縁があったこともあり国内でのサッカー文化や盛り上がりを思い出し、身近に感じる事ができた。酒井選手と川崎選手がそれぞれの立場、経験をもとにした選手目線のコメントが見所であった。特に日本人選手がドイツで活躍することが日本代表につながっていくことが伝わり興味深かった。一方、“DFBポカール”の言葉の意味やバイエルンミュンヘンがなぜ強いのか、リーグ戦とポカールをともに優勝することが如何に凄いことなのか、ジャイアントキリングが一つの注目ポイントであればトーナメント表の紹介等へも踏み込んでもらえれば、より視聴者の興味を深めたのではないかと。更に現地サポーターの声や街の様子、SNSの反応などの情報があれば、よりドイツサッカーの熱量が伝わったであろう。

- 日本でいう天皇杯のような大会であると理解した。ドイツでのプレー経験のある2選手の話は大変貴重で説得力があり、じっくり聞き入った。サッカーはにわかファンであるが、ブンデスリーガの立ち位置も分かり、ハーランド選手やケイン選手の活躍からもリーグのレベルの高さを感じとることができた。コンパクトで中身の濃い番組であった。付け加えるとすると、日本では馴染みの少ないアマチュア出場チームの紹介や変わり種選手などのプチ情報があれば、より厚みを増した番組になったのではないか。
- 仕事の関係でバイエルンミュンヘンにスポーツビジネスを学びに現地に滞在したことがあり、番組を通してドイツのサッカー文化やファンの情熱を思い起こすことができた。今年はサッカーのワールドカップが開催されたこともあり、海外サッカーに対する関心も高く、ドイツでの日本人選手の活躍を期待しながら興味深く視聴することができた。DFBポカールの歴史も勉強でき、トーナメント初戦の大切さや下位チームとの対戦の難しさ、そして如何に新シーズンの開幕をチームとして迎えていくのか、その重要性がよく伝わってきた。
- 限られた映像素材の中、これまでの歴史と日本人選手の紹介が上手くまとめられていた。ドイツサッカーの歴史を語るなら先駆者である奥寺康彦氏を見たかったところ。出演選手の人選には苦労したようだが、川崎颯太選手は、ドイツでの出場は少なくコメントに物足りなさを感じた。加地亮さんは、もっとドイツサッカーを勉強してから語って欲しかった。一方、酒井高德選手は、ドイツで8シーズンの経験があり、ハンブルガーSVでは日本人で初めてキャプテンを務めただけあって話には厚みと説得力があった。また、番組ターゲットの話にもなるが、名門チームや市民的クラブのチーム背景やその変遷、地元地域との関係性などのチーム事情まで盛り込んでいくと、ネット配信をみるファン層とは違った視聴者層に響くサッカー番組になっていくのではないか。
- 一般視聴者へドイツカップの中継を訴求し盛り上げていく特別番組として、バランスの取れたいい番組であったと評価する。30分という制約がある中、映像の使い方は効果的で、出演者から貴重なコメントが上手く引き出せていた。今回は、外部プロダクションの制作番組ということだが、ディレクターのセンスが感じ取れる構成であった。敢えて一点申し上げておくと、出演者のタトゥーが横のカメラからは手前に映っており、何らかの工夫があってもよかったのではないか。まだまだ日本では、快く思わない視聴者がいることにも配慮が必要であろう。

[審議委員]

種子田穰委員長、影山貴彦副委員長、黒田勇委員、藤井純一委員、沢松奈生子委員、森本志磨子委員、石塚徹委員（以上7名）

以上、GAORAでは、委員の皆様の貴重なご意見を、より良い番組をお届けしていくために活用させていただきます。